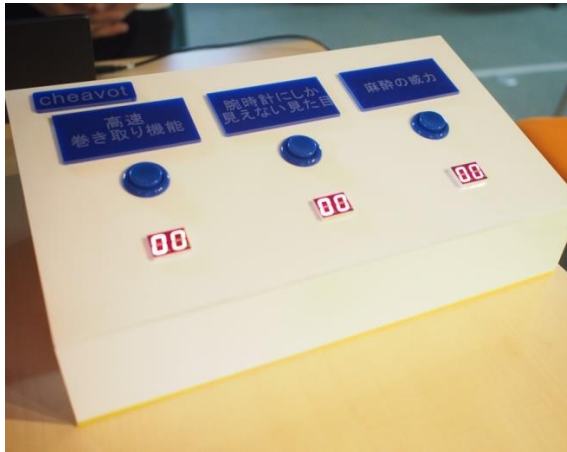


Cheavot

福田雅文 浅井健太 畑田芳則

水野貴也 鷲野愛未 渡辺昌寛



○概要

展示者不在の作品展示において、製作者の「こだわり」を、作品を見る人に伝えるための装置である。見た目は投票装置のようであるが、実際は人の関心を集めることを目的としている。ここで想定している「こだわり」というのは、製作者がどうしても譲れない機能や、最も見てほしい点である。

○機能

・Vote（投票）機能

Cheavot の投票先の選択肢のうち一つは作者のこだわり、残りは作品の外見上の特徴などが設定してある。これにより投票者は、見た目では分からない「こだわり」の選択肢が少し気になるという状況が生まれると考えられる。実際に簡単なユーザーテストをすると、「この選択肢ってどういう意味？」と尋ねる人もおり、選択肢を適切に選定すれば自発的にこだわりに興味を持たせることが可能であると考えられる。

また投票という形式をとることで、選択肢にふれる、つまりこだわりに触れる機会

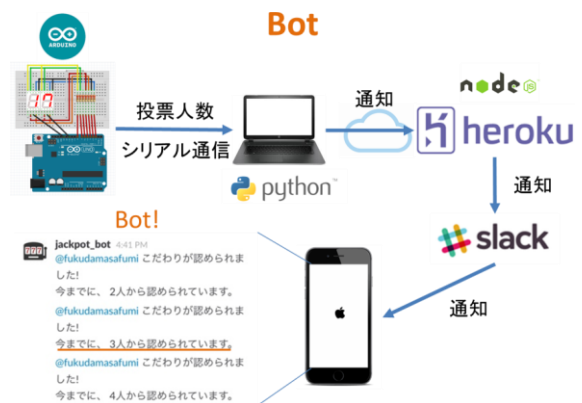
を自然に増やすことができる。

・Cheat（イカサマ）機能

投票などの場面において、人は得票数が多い選択肢が気になるという傾向がある。この性質を利用するのが Cheat 機能である。得票数を意図的に操作して常にこだわりの選択肢の得票数がトップの状況にする。そうすることで見る人の関心を自然にこだわりに向けるという狙いがある。

・Bot（自動発言）機能

展示者不在の展示において、こだわりが評価されていることを製作者が実感できるように Cheavot には Bot（自動発言）機能がある。下図のような通信によりこだわりへ投票されるたびに、作者の携帯に得票数が通知される。この得票数はこだわりの選択肢に実際に投票された回数である。



○終わりに

Cheavot は大学院の「エンジニアリングデザインプロジェクト A」という講義の中で製作した作品である。